

総務省

山談義で交流の輪

旧自治省系の登山愛好家を中心につくる「山遊会」(会長・滝野欣弥自治財政局長)のメンバーが九月、久しぶりに顔を合わせた(写真)。参加者は二十人を超え、「それぞれ忙しいのに、これだけ集まるとは……」と結束力の強さを確認。会合は、旧自治省OBで全国市長会の鈴木正明事務総長が日本百名山を踏破、これを祝うのが目的で、各参加者はわがことのように喜び、盛り上がったという。さらに、近況報告などを通じて、メンバー間の交流も深めたもようだ。

ただ、山遊会が「登山抜きで懇親会の場を持つことは初めて」(若手メンバー)とか。実際は、質実剛健をモットーに、休日などを活用して本格的な登山を楽しみ、体を鍛えるグループで、登山歴の長い先輩による技術指導や山談義も魅力の一つとなっている。鈴木総長に先んじて日本百名山を制覇、その後も精力的な山行を展開している自治行政局の牧慎太郎自治政策課情報政策企画官もメンバーの一人だ。

このため、今回の集いは異例だったわけだが、「若手の皆さんのパワーを知る良い機会でした」(年配メンバー)などと参加者の反応はす



こぶる上々だった。また、OBでは鈴木総長のほか、杉原正純・地方公務員災害補償基金理事長(一九六一年入省)、磐城博司・自動車安全運転センター理事(六七年入省)も参加。いずれも衰えを知らぬ健脚ぶりで、若手メンバーからは、「どうしてあんなにさわやかなのか」とため息が漏れていた。

つわものぞろい

山遊会の幹事は代々、総務省の自治行政局公

務員部福利課の若手が務めるのが伝統。「重責から、配属が決まった瞬間に緊張が走る」(幹事経験者)とも。山行の際は、参加者への連絡やらコースタイムの管理やら、あらゆる裏方業務をこなさなければならぬ。しかも、「登山経験者が福利課に配属されるという法則はまったくない」(メンバーの某幹部)という。

現在の幹事は、二〇〇三年入省の沼沢弘平さん。今回の懇親会でも案内や出欠確認などを担当。「そうそうたる先輩ばかりで身震いしました」と率直な感想を語っていた。ただ今回は、同期入省で総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課の功刀岳秀さん、官房総務課の中山貴洋さんが強力な助っ人として沼沢さんの幹事業務をお手伝い。いずれも「山遊会メンバーの迫力に圧倒されました」「普段はお話する機会のない方ばかり」と口をそろえつつ、今後山遊会に参加したい意向を宣言していた。また、幹事OBの橋本憲次郎自治行政局自治政策課国際室課長補佐(九四年入省)、幹事OGの自治税務局都道府県税課の尾崎祐子さん(〇二年入省)も参加、後輩をやさしく見守っていた。

昭和入省の先輩陣は、「ほんとうに頼もしい限り。山遊会は安泰だ。でも今度は登山もしつかりやろうね」と元氣な若手に目を細め、「仕事だけでなく、山を通じてネットワークが構築されるなんて素晴らしいじゃない」とさらなる結束を呼び掛けている。